

[展覧会] クイズ チャレンジ②



滋賀県立琵琶湖文化館地域連携企画展
滋賀県立安土城考古博物館第65回企画展

伝教大師最澄と
天台宗のあゆみ

如是我聞一時佛在毗盧遮那世界
開闢妙喜莊嚴於時三月十五日
有阿難陀從座起起衣敷叉手合掌
而白佛言如來所說妙法蓮華經
今當宣說其要初佛告阿難陀
日佛告世尊如來滅後云何眾生
得行大義方等經義正合無難一
何不共上菩提之心云何復當不
離五欲得淨觀報除諸罪父母
淨常服不勤五欲而得淨觀報
淨常服不勤五欲而得淨觀報

滋賀県立琵琶湖文化館地域連携企画展
滋賀県立安土城考古博物館第65回企画展

伝教大師最澄と 天台宗のあゆみ



地域連携企画展 [安土城考古博物館スペシャル]

展覧会に関する“あれこれ”について、クイズにしてみました。是非チャレンジしてみてください！

問題⑤

最澄が僧侶として延暦4年(785)に比叡山に入山した際、東塔北谷虚空蔵尾にあった霊木に、自ら〇〇如来を彫り、修行をおこなう草庵(一乗止観院)の本尊としたと伝えられています。この草庵は、後に比叡山延暦寺の総本堂である根本中堂につながります。さて問題です。最澄が自ら彫ったといわれる〇〇如来。現在の根本中堂内陣の厨子の中に秘仏として安置される、延暦寺の本尊〇〇如来と言えは？ズバリどっち？

やくし 薬師 or あみだ 阿弥陀



問題⑥



出陳番号 19
草津・観音寺蔵

大きく目を見開き、まゆ毛を寄せて怒った表情をしておられます。耳たぶは、とても大きな“福耳”です。恰幅が良く、少し“ふくよか”な体形ですね。服装は鎧をまとった武神の姿です。武器のような棒と大きな袋を持っておられます。さて問題。実はこの方、七福神のメンバーなのですが、その正体とはいったい？

だいこくてん 大黒天 or びしゃもんてん 毘沙門天

問題⑦

最澄が遺した有名な言葉「一隅を照らす」は、山家学生式という仏教書の「天台法華宗年分学生式」に登場します。この教義の冒頭は「〇〇とは何物ぞ」という問いかけで始まります。〇〇には、現在の文化財指定区分でもおなじみの言葉が当てはまります。それはズバリどっち？

こくほう 国宝 or じゅうぶん 重文

滋賀県立 琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL / 077-522-8179 FAX / 077-522-9634
E-mail / biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp
ウェブサイト / http://www.biwakobunkakan.jp

クイズの答えは、是非展覧会の会場で
ご確認ください！

～会場出口付近に答えが掲示されています～

[会期] 令和4年2月5日(土)～4月3日(日)
[会場] 滋賀県立安土城考古博物館
近江八幡市安土町下豊浦6678



天台法華宗年分學生式一首

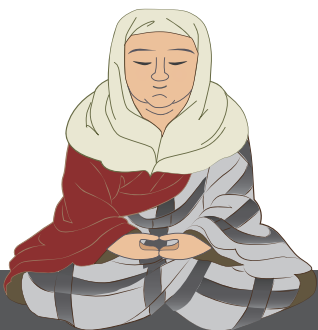
國寶何物寶道心也有道心人名爲國寶故古人言
徑寸十枚非是國寶照于一隅此則國寶

國寶何物寶道心也有道心人名爲國寶故古人言
徑寸十枚非是國寶照于一隅此則國寶

國寶とは何物ぞ。宝とは道心なり。道心ある人を名付けて国宝となす。故に古人の曰く、

徑寸十枚、これ国宝にあらず。一隅を照らす此れ則ち国宝なりと。

※ 道心（仏を信じる心）／ 徑寸十枚（多くの金銀財宝の例え）／ 一隅（かたすみ）



知るは楽しい！琵琶湖文化館

【展覧会】クイズチャレンジ②

【解答・豆知識 編】

⑤ 答え

【薬師（瑠璃光）如来】

やくりにょらい とうほうじょうるりせかい じょうど きょうしゅ もつ しゅじょう
薬師如来は、東方浄瑠璃世界（浄土）の教主で、瑠璃光を以て衆生の
びょうく へんさん かよう
病苦を救うとされるほとけさまです。平安時代末期に編纂された歌謡
りょうじんひしやう
集「梁塵秘抄」には、「近江のみづうみ（湖）は海ならず、天台薬師
の池ぞかし（近江の湖はただの海ではない天台薬師の池なのだよ）」
と詠まれたほどに、天台宗は延暦寺を中心に大きく発展をとげました。



No.16 薬師如来立像（重要文化財）

大津市の聖衆来迎寺につたわる本像は、天台薬師の池ともたえられた琵琶湖の中から出現したとも伝えられています。



比叡山より琵琶湖を望む

天台仏教の影響により滋賀県には数多くの薬師如来像が伝えられています。彫刻としては 45 件の薬師如来像が国の重要文化財に指定され、その数は都道府県別で全国 1 位となっています。

※ 2 位 奈良県（42 件） 3 位 京都府（35 件）〔令和 4 年 2 月末現在〕
文化庁 web 国指定文化財等データベース参考 / 文化館調べ

⑥ 答え

【大黒天】

最澄が延暦 7 年（788）に草庵（一乗止観院）を創建した際、最澄の眼前に大黒天が現れたとの伝承があり、感激した最澄は、その姿を刻んで祀ったと伝わっています。このことから、日本の大黒天信仰の始まりは最澄からとされ、天台宗寺院には多くの大黒天像が祀られるようになりました。

当初は鎧をまとい、憤怒の表情をした武神のスタイルでしたが、次第に福德神としての性格が強調され、笑顔でふくよかな体形で俵の上に乗る大黒天が広まりました。



No.19 大黒天半跏像

薄型の台座に片足を踏み下げて座る古い形式を受け継いだ室町時代の作。ほぼ天台宗寺院にのみ伝わる形式。



No.18 大黒天立像（県指定）

福德神形の大黒天の中でも最古級とされる南北朝時代の貴重な作。

姿は違えど
どちらも
大黒天

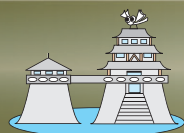
明寿院に伝わる木造大黒天半跏像は、最澄が唐より持ち帰ったとの伝承があります（No.19 より少しスリムです。）

彫刻で国の重要文化財に指定されている大黒天像 8 件のうち、3 件が滋賀県にあります。
大津市 / 延暦寺（鎌倉時代）
愛荘町 / 明寿院：金剛輪寺本坊（平安時代）
東近江市 / 光明寺（江戸時代）

⑦ 答え

【国宝】

現代の法律である文化財保護法は「重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいえない国民の宝たるもの」を**国宝**と定めています。一方、最澄は金銀財宝などではなく、道心（志）ある「人」こそが**国宝**であると説きました。内容の違いはあれど、どちらも欠かすことのできない大切なものであることに違いはありません。



滋賀県立 琵琶湖文化館

ウェブサイト / <http://www.biwakobunkakan.jp>

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL / 077-522-8179 FAX / 077-522-9634

E-mail / biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp